



慶應義塾大学三田キャンパスにて9月7日（土）本選プレゼンテーション開催
《最優秀賞》“メディア・テクノロジー部 雨ニモ風ニモ負けない色白ガールズ”
《あなたは笑顔でもっと幸せになれる》をテーマに発表



ビジネスパートナー
株式会社 電通
石田 審査員



別室で審査中の先生方



慶應義塾大学
村井 審査員長



《最優秀賞》
富山国際大学附属高等学校

2019年9月7日（土）午後1時半、慶應義塾大学の三田キャンパスにて、SFC研究所データビジネス創造・ラボが主催し、株式会社電通をビジネスパートナーに《第10回データビジネス創造コンテスト》“メディアの未来”が開催されました。

電通がインターネット結線テレビ視聴数等データ、radiko が聴取数、Ground Truth®が路線別来訪数、ビデオリサーチがVR Cubic データで協力、また経済産業省、総務省統計局、応用統計学会、国立研究開発法人科学技術振興機構、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所、日本オペレーションズ・リサーチ学会、データサイエンティスト協会、独立行政法人統計センター、日本情報経済社会推進協会、日本統計学会の後援で実施されました。

今回のテーマは「メディアの未来～データから見通すメディアのかたち～」です。

審査員長の村井純先生がわが国で初めてネットワークの構想を基に東京大学や東京工業大学と取組んだ“JUNET”さらに米国との間でインターネットを接続開始して35年、インターネットの普及、高品質化、ラジオ・テレビはもとより、本や屋外広告なども過激に変化しています。

あらゆる分野で中心的な存在であるビジネスパートナー電通はじめ各種企業より提供される最新データを活用してメディアの未来を見通し、提案して頂きました。

今回は全国の高校や大学から39チームが応募、必要書類等を提出した34チームを対象に書類審査予選、ファイナリスト10チームが慶應義塾大学の三田キャンパスに参集し、本選が行われました。

慶應義塾大学SFC研究所データビジネス創造・ラボ

撮影・原稿作成：前川 恒久
 QCサークル京浜地区・顧問
 日本品質管理学会 会員
 TQE特別委員会・委員

《 開会挨拶 》



最優秀賞のシャベル



開会挨拶を行う 株式会社 電通
データテクノロジーセンター
データマーケティング室 PMP
トレーニングデスク
石田 部長



開会挨拶を行う慶應義塾大学
大学院政策・メディア研究科
教授 村井審査員長



記念トロフィとシャベル



最優秀賞賞金

《第10回データビジネス創造コンテスト》のビジネスパートナーは株式会社電通、同社データ・テクノロジーセンター データマーケティング室 PMP トレーディングデスクの石田部長が開会挨拶を行いました。

世界規模で事業展開する電通は、近年の急激な変化を先取りし、新たな事業分野を開拓していますが、今回の「メディアの未来」はまさに事業活動に直結したテーマであり、若い皆さんの提案を楽しみにしていると挨拶しました。

続いてコンテストの仕掛け人、慶應義塾大学政策・メディア研究科委員長兼環境情報学部教授の村井審査員長が登壇し、開会挨拶を行いました。

今回で10回目となる《データビジネス創造コンテスト》は、回を重ねるごとに実社会でそのままビジネスに直結できるようなアイデアが提案されており、今回も予選段階からエントリーされた資料を審査するたびに、レベルの高さに驚かされ、今から皆さんのプレゼンテーションが大いに楽しみと挨拶しました。

《第10回データビジネス創造コンテスト》プレゼンテーション

“次世代ソーシャルメディアの提案” …名古屋市立大学大学院



最初は名古屋市立大学の“山本孔次郎”さんが《次世代ソーシャルメディアの提案～デジタルネイティブのメディア消費から探る》をテーマに発表しました。

生まれた時にはインターネットがあったデジタルネイティブの行動は、どのような傾向があるのか解析しました。

ビデオリサーチとradiko 提供の情報を基にミレニアル世代、団塊世代、それ以上の高齢世代と比較して、現在25歳以下の若者は何を基に情報収集し、行動しているかを解析、好きな時に好きな情報を得ることができるSNSが情報共有でも有効と、新たな情報発信への提案をしました。



“あなたの知りたいがコレで見つかる” ……東海大学



2 番目は東海大学のチーム“トップガン”が《あなたの知りたいがコレで見つかる～統合通知アプリ「ノーティス」～》のタイトルで発表しました。

団塊ジュニアと呼ばれる40代世代の消費動向は「価格や品質にこだわり、自分に合ったものを買う」こだわり消費の世代だそうです。

そこでDECAX*1の活用やビデオリサーチのデータのクラスター分析から「淡々と情報収集」「エンタメ大好き」「メディア大好き」「楽して知りたい」の各々のクラスターに合った団塊ジュニア世代向きアプリ「ノーティス」が役立つと提案しました。



*1 消費行動モデルDECAX : Discovery⇒Engage⇒Check⇒Action⇒Experience

《第10回データビジネス創造コンテスト》プレゼンテーション

“Radio-Kai-Tai” …慶應義塾大学・東京都市大学



3 番目は慶應義塾大学と東京都市大学のチーム“河横”が「Radio-Kai-Tai」をテーマに発表しました。

ビデオリサーチの調査で一週間のラジオ接触率は「聞いた」と「聞いていない」が拮抗していますが、近年、ラジオは他のメディアに追いやられているそうです。

2011年の東日本大震災や先の熊本地震では携帯電話は通信不能に陥り、ラジオで情報を集めようとする人が増加、通信障害が起きにくく、即時性が高いラジオの有効性が改めて発揮されたことから、「ラジオ解体」「ラジオ買いたい」「ラジオ再来」のラジオを見直す提案をしました。



“あなたは笑顔でもっと幸せになれる” …富山国際大学附属高等学校



4 番目は富山国際大学附属高等学校のチーム“メディア・テクノロジー部雨ニモ風ニモ負けない色白ガールズ”が《あなたは笑顔でもっと幸せになれる》をテーマに発表しました。

校内生徒に天候と気分の関係性について調査すると「本、新聞、雑誌、ラジオ」への関心が薄く、スマホの動画やSNSをよく見ると同時に手鏡を頻繁に見ることが判明しました。

天気予報の女性キャスターの笑顔に関心が向き、手鏡に映るいろいろな心理状態の自分の顔をAIが評価、いつも笑顔でいられるよう反応する「ハンドミラー」を考案、これこそ未来のメディアになると提案しました。



《第10回データビジネス創造コンテスト》プレゼンテーション

“ニーズに応えるスマートトレインの提案” …慶應義塾大学大学院



5 番目は慶應義塾大学大学院のチーム“メロンライス”が《ニーズに応えるスマートトレインの提案》をテーマに発表しました。最初に「どのように情報を得たか」について質問し、私たちが日常的に得ている情報について意識させました。

江戸時代と現代の情報量の差を示し、私たちが多種多様のメディアから得ている過剰ともいえる情報の中から本当に必要な情報をどのように得るかを radiko の情報を分析し、これからはもっと個人にカスタマイズした情報メディアの時代になると結論。視認率の高い電車の「車内ビジョン」をはじめとし、電車がメディアになる時代と提案しました。



“指向性スピーカー付き信号機でSTOP!! 歩きスマホ” …東海大学



6 番目は東海大学のチーム“TKG”が《指向性スピーカー付き信号機でSTOP!! 歩きスマホ》をテーマに発表しました。

“歩きスマホの危険性”については誰しも認識していながら、10代から30代の60%を超える現状から、渋谷のスクランブル交差点を観察調査・分析した結果、信号待ちをしている時間にスマホを見てしまうことが判明しました。

そこで信号待ちの時間を活用した注意喚起と同時に待ち時間を退屈させない、思わず耳を傾けてしまいたくなるような内容の放送を信号機から行うことで「歩きスマホを止めさせる」提案を行いました。



《第10回データビジネス創造コンテスト》プレゼンテーション

“ユーザーのバイアスを中性化する新しいかたち” 千葉大学・早稲田大学・東京女子大学・津田塾大学



7番目は千葉大学・早稲田大学・東京女子大学・津田塾大学のチーム“未完成(仮)”が《ユーザーのバイアスを中性化するメディアの新しいかたち》をテーマに発表しました。

テレビ・ラジオなど電波媒体、新聞・雑誌などの紙媒体、SNSに代表されるインターネットなど現状のメディアを分析、受動的メディアと能動的メディアに分類、受動的メディアでは編集者のバイアス、能動的メディアでは受信者のバイアスがかかるデメリットを指摘しました。そうしたデメリットを除いた情報収集のための新たな検索方法と提案しました。



“Re:radio”実践女子大学



8番目は実践女子大学のチーム“あられ”が《Re:radio》をテーマに発表しました。

メディアではテレビやネットに比べてラジオは低迷が続いているが、現状分析してみるとラジオは「どこでも聴ける、勉強しながら聴ける、災害時にも大活躍」など多くのメリットが判明しました。しかし、特に若者のラジオ聴取率が低迷しているので、ラジオを盛りあげたい、聴きたいラジオ番組を自分で探す時代はもう古いと指摘しました。

その結果、未来のラジオは人の声、音で聴き手に寄り添い、癒しになるメディアとして発展を提案しました。



《第10回データビジネス創造コンテスト》プレゼンテーション

“ご当地電車ラジオプロジェクト” …… 横浜国際高校・和光高校・山手学院高校・清泉女学院高校・聖ヨセフ学園高校



9番目は5高校の混合チーム“ww.con”が《ご当地電車ラジオプロジェクト》をテーマに発表しました。

メディアの変遷が見られる中、年齢別視聴数、発行部数、売上等を分析してみると、現代生活では“聞く”ことに重点を置く傾向にあります。

そこで“聞くこと”に特化したメディアとしてラジオに注目しました。

ラジオは高めの年齢層の利用が多く、休日より平日、日常の中で使われ、聞き流しに活用することから、聞き流しに向けた電車内で地域の情報を流す番組をと提案しました。



“情報を『情報』に～健康情報の自分ゴト化～” …… 筑波大学大学院



10番目は筑波大学大学院“チーム真っ白”が《情報を『情報』に～健康情報の自分ゴト化～》をテーマに発表を行いました。

超高齢化社会において健康寿命を延伸させるため、また個人の生活の質の向上を図るため、疾病予防に役立つ情報を提供できるメディアが必要と指摘しました。

高齢者がどうすれば健康を意識した行動をとることができるか、健康行動×マーケティングの“A I S A S^{*2}”モデルの展開がメディアには求められていると分析し、生活者が健康情報を自分ゴトとして受取れる「健康情報共同管理アプリ」を施策として提案しました。



* 2 電通が提唱するマーケティングモデル：A I S A S : Attention⇒Interest⇒Search⇒Action⇒Share

《第10回データビジネス創造コンテスト》プレゼンテーション

《プレゼンテーションを聞き審査中の先生方》



《熱心に、鋭い質問を行う審査員の先生方》



審査は、慶應義塾大学政策・メディア研究科委員長兼環境情報学部教授の村井審査員長はじめ、総務省統計局の長藤課長、文部科学省初等中等教育局の鹿野審議官、統計数理研究所の椿所長、Preferred Networksの丸山PFNフェロー、ブレインパッドの草野社長、NTTコムオンライン・マーケティング・ソリューションの塚本社長、デジタルガレージの渋谷COO、電通の石田部長、電通のアナリストの永田氏、radiko 業務管理室の岡田室長、ビデオリサーチ・ソリューション事業局の鈴木シニアエキスパート、Ground Truth®の安

里氏、アクセンチュアの村重シニアマネジャー、慶應義塾大学環境情報学部の安宅教授、慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科の渡辺教授が審査を行いました。

発表終了時には早速審査の先生方の手が挙がり、質疑応答が行われました。

事前に提出されたプレゼンテーション資料を基に事前審査を行っている先生方、本選のプレゼンテーションを聞いている内に、資料では不明確だった点などを早速質問、専門家だけに鋭い質問が相次ぎ、ファイナリストもタジタジかと思いきや的確な応答が相次ぎました。

《第10回データビジネス創造コンテスト》審査時間中

ビジネスパートナー・電通の特別講演



A I 関連のビジネスを全方位で推進して行くと...



大学研究サポート/大学との連携.....



データテクノロジーセンター
DMP開発3部
前川 駿 シニア・ディレクター



A Iソリューション部
新納 大輔 プランナー

審査委員会が行われている間、会場では今回のビジネスパートナー電通データテクノロジーセンターのDMP開発3部の前川シニアディレクターとA Iソリューション部の新納プランナーにより「未来のメディアビジネスを描こう」をテーマの特別講演が行われ、発表を終えたファイナリストの皆さんが熱心に耳を傾けました。

《第10回データビジネス創造コンテスト》表彰式

審査員室では厳正な審査が行われました



全チームに《入賞》の表彰状を授与



最初にNTTコムオンライン・マーケティング・ソリューションの塚本社長が全入賞者へ表彰状を授与

《高校生部門賞》…チーム“メディア・テクノロジー部兩ニモ風ニモ負けない色白ガールズ”



慶應義塾大学環境情報学部の安宅教授が《高校生部門賞》を授与しました

慶應義塾大学SFC研究所データビジネス創造・ラボ

《第10回データビジネス創造コンテスト》表彰式

《メディアアナリスト賞》…… “山本孔次郎”



電通の石田部長が《メディアアナリスト賞》を授与しました

《未来創造賞》…… チーム “河横”



デジタルガレージの渋谷チーフテータオフィサーが《未来創造賞》を授与しました

《審査員特別賞》…… “チーム真っ白”



フレインプッドの草野社長が《審査員特別賞》を授与しました

《優秀賞》…… チーム “TKG”



Preferred Networksの丸山PFNフェローが《優秀賞》を授与しました

《第10回データビジネス創造コンテスト》表彰式

《最優秀賞》チーム“メディア・テクノロジー部 雨ニモ風ニモ負けない色白ガールズ”



村井審査員長が富山国際大学附属高等学校の皆さんへ《最優秀賞》を授与しました



《最優秀賞》のシャベル、純金製なので重いから落さないでね……って



《第10回データビジネス創造コンテスト》



発表風景を後ろから見るとこんな感じ・・・次回に向け見学する人たちがたくさんいました

《第10回データビジネス創造コンテスト》開催の舞台裏



全体の責任者の植原先生



午前9時集合したスタッフの皆さん



スタッフを指揮する鈴木さん



9時半には舞台上の設営を開始



パソコンの設定も準備開始



司会の担当もリハーサル開始



司会の担当は原稿を読み込み中



音響や照明の操作室でも準備完了



受付設営・名札等をチェック



12時、ファイナリスト受付開始



発表前に注意事項確認



リハーサルを行い最終確認

《第10回データビジネス創造コンテスト》

《閉会挨拶》……………村井審査員長



表彰式も終えてホッとする間もなく、閉会の挨拶をする村井審査員長

《記念撮影》



本選を前に審査の先生方は余裕ですが……発表者の皆さんは緊張中？



本選終了後の皆さん、大変お疲れ様でした……もう余裕の笑顔ですね